

(3) 調査結果

ア 南砺市

- (ア) 調査地：富山県南砺市
- (イ) 調査地の諸元：人口 58,299人（平成18年8月1日現在）
- (ウ) 先進事例の名称：南砺市情報化システム
- (エ) 事例の説明者：南砺市総務部情報政策課 大浦課長
南砺市総務部情報政策課 片田副主任情報係長
- (オ) 事例の概要

この事例は、ICカードを利用した南砺市情報化システムに関するものである。

平成16年11月に広域合併（旧自治体は8町村）を行った南砺市は、効率的な行政運営を行う上で、ネットワークインフラ網の整備とその利活用を重要視し、総合的にICTの推進を進めてきた。

ネットワークの整備に伴い、ICカードによる本人認証の機能を活用し、システムにはオープンソースソフトウェアを活用した。情報表示端末としては、利用環境に応じてパソコンや情報キオスク端末を公共施設等に設置した。

市民に対して提供されているアプリケーションは、ICカードを利用した印鑑登録証・図書館利用・高齢者介護・診療検診予約・公共施設予約・TV会議認証・成長記録照会・観光交流のサービスがある。

南砺市情報化システムの概要は図3-1のとおりである。

図3-1 南砺市情報化システムの概要



(カ) 事例の主な特徴

南砺市情報化システムの特徴は以下の2点である。

- ① 「ユビキタス地域社会」を目指して行政と民間が協働し、ICT利活用を進めていること。
- ② ICカード（住基カード）等を利用し、高セキュリティと簡易性を併せ持ったインターフェースを有していること。

その一例は南砺市の官民協働サイト「なんと-e.com（なんとイーどっとこむ）www.nanto-e.com」に現れており、多くの地域住民が行政と一体となり積極的に情報配信を行っている。「なんと-e.com」のコンテンツには地域住民限定のSNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）およびブログが用意されているが、本人認証を確実にしない、サイト内の信頼性を保持するために「住基カード」によるログインが利用されている。

「なんと-e.com」のシステムは行政ポータルサイトとも連携されており、情報の交換が促進される仕組みとなっている。

さらに、これらサイト上に蓄積された情報はパソコンによる閲覧のみに留まらず、多様な行政サービスが利用可能なタッチセンサー付きキオスク端末でも簡易に操作・閲覧ができる。

(キ) 導入に至った経緯、目的

合併前の旧福光町では少子高齢化が進み、地域の活性化と高齢者向け行政サービスの充実が急務となっていた。この問題を解決するために、同町はITを利用した町づくりに取り組み、その結果、行政システムの整備から産官学連携の地域ポータルを構築するまでに広がりを見せた。

このような同町の取り組みを新市発展のために活かそうと、平成16年の合併を機に南砺市全域に展開し、住民が行政相談や行政情報の取得が容易になることで、より住みやすい地域となることを目的とした。中央データセンターを設置し、市内を光ファイバーで接続することにより、管内公共施設や自宅からインターネットを通じて様々な行政サービスを受けられるようになった。特にICカードを利用したシステムでは、多機能で多目的なサービスを実現した。

(ク) 導入までの特徴的な注意点等

- ・ ICカード普及促進に向けて。

南砺市では、ICカード（住基カード）の利用普及を促進するために、合併前の平成16年4月より旧8町村の窓口で住基カードの即日交付を行った。

住基カード発行に有する手数料は無料とし（再交付の場合は500円）、旧印鑑登録証に有効期限を設け（平成19年3月）住基カードへの切り替えを推進した。（平成18年8月現在、約60%の切替え率）

- ・ ユビキタスな地域情報化を目指して。

高齢化が進む南砺市では、高齢者でも簡易に地域情報が得られるように「バリアフリー」デザインに配慮した。高齢者は公共施設等に設置されたタッチパネル式プラズマディスプレイを利用したキオスク端末に指で触れるだけで、さまざまな情報を閲覧することができる。

その画面に映し出されるナビゲーションデザインは、各情報に対応した番号をディスプレイの下部に配置し、アイコンが上から下へ順次スクロールしているため、目的の番号やアイコンに触れるだけで、画面の上部に届かなくても情報を得られる設計とした。

また、行政ポータルサイトのCMSに登録されたデータは連結した他の媒体においても瞬時に更新される仕組みとなっており、「行政ポータルサイト」、「なんと-e.com」、「携帯電話ポータル」、「キオスク端末」において閲覧できる。

(ケ) 導入後の効果

ICカードの発行枚数は、住基カード23,838枚（40.9%）、なんとカード438枚であり、全国有数の配布枚数（人口比）である。

南砺市のICTシステムは全般に統一した「バリアフリーデザイン」を施したことから、高齢者や障害者でも操作しやすいシステムとなっており、平成16年度にはバリアフリー化推進功労者表彰（内閣総理大臣表彰）を受賞している。

「なんと-e.com」に参加している商工業者の中には、売り上げ向上や新規取引に繋がった事例も散見できる。市民限定ブログなど、市民が積極的に地域ポータルサイトに情報提供者として参加し、対話を深めることにより地域全体のICT人材育成・リテラシー向上にも繋がっており、洋服店の店主がシステムの講習を他の店主に行うなど、草の根的なICT利活用の機運が広がっている。

(コ) 発展の可能性

南砺市においては、官民ともに「地域協働」の姿勢で、行政サービスや民間活動が行なわれているため、今後も発展する可能性がある。

まず、行政ポータルサイトは必要に応じて地域ポータルサイトに情報が反映される他、市民ニーズにより情報の表示順が変化する工夫などがあり、住民指向のサービスを提供する基盤は整っている。

地域ポータルサイトは、運営母体であるNPO法人「なんと-eユビキタスネットワーク協議会」が、地域社会の情報化推進における重要な役割を果たしている。この協議会には産官学民から多くの方が参加し、充実した議論が情報化推進の原動力となり、現在も活発に活動していることから、今後も発展する可能性がある。

また、各システムのインターフェースデザインに「バリアフリー」デザインを施し、Web上だけでなく、様々な媒体に配慮したデザインにより、誰もが情報に触れやすい環境を提供していることも、今後発展する要因である。

(サ) 北陸地域への波及の可能性

住基カード認証を利用した地域内限定ブログ等は、地域という限られた社会でのソーシャルネットワークの新しいあり方として、注目すべき活用方法である。

このように地域コミュニティがもつ信頼性を担保したWeb2.0的な利用方法は、現代の情報化社会が潜在的に有するネット上のセキュリティ等の問題点を克服する手段として波及する可能性がある。

また、南砺市の地域ポータルサイトはNPO法人がサイト運営で得た自主財源で運用を行っていることから、ビジネスモデルとしても安心して継続運用が可能となっている。

このように地域全体が安心して利用できるネット上の仕組みは、他の地域にも波及する可能性がある。

南砺市の住基カード（ICカード）は、利用するとマイレージポイントが蓄積され、地元の名産品との交換や公共施設の無料利用が可能となる等、市民が利用したくなる工夫がされている。このような工夫を各地域の実情に合わせて行うことにより、他地域においても多くの広がりを見せる可能性がある。

(シ) 今後の計画等

南砺市は、ICカード（住基カード）を利用したセキュリティの確保やオープンプラットフォームで構築されたシステム群など、ユニークな特徴が絡み合い、独特の成長を見せているが、住基カードのさらなる利用促進のために運用を含めた行政側の意識改革と提供アプリケーションサービスの充実を考えている。

また、技術基盤をさらに推進させる上で携帯電話の利活用やCATVデータ放送などの検討を行うこととしている。

[大型のプラズマディスプレイに触れるだけで情報を取得できる]

